

「さなぶり」イベントにぎやかに

福島市松川町の「あぶくま茶屋」で、「かーちゃんのカプロジェクト協議会」による「さなぶり」イベントが開催されました。

この協議会は、避難を余儀なくされている「かーちゃん」たちの力、知恵、技術を生かす場所を作り、「地域の味・おふくろの味」であぶくま地域を元気に復興させるため、福島大学小規模自治体研究所が住民団体等と協力し立ち上げたものです。

また「さなぶり」とは、田植え後の手休めに柏餅やおこわを作っ
てふるまう行事のことです。この日は柏餅作り体験や地元松川町の農産物の直売などが行われました。柏餅作りは大盛況で、参加者は「久々に作ったので思うようにできない」「教わった作り方で、早速帰って作りたい」と悪戦苦闘しながらも楽しんでいました。

代表を務める渡邊とみ子さん（前田・八和木）は、「村の方がたくさん来場してくれてうれしい。今後は、かーちゃんたちの技術や技を残していくことが課題です」と話していました。「かーちゃんのカプロジェクト協議会」の加工食品は、松川仮設の農産物直売所「なごみ」でも購入することができます。

天気にも恵まれ近隣の人も
たくさん訪れていました▼



▲手づくりの柏餅はきっと格別な味

青森市からはねと がやってきました

松川第一応急仮設住宅を青森市からはねとの一団が訪れました。青森市長、「ミスねぶた」をはじめ青森のみなさんは全員が祭りの衣装。集会所前の広場でお囃子もにぎやかに威勢のいい踊りを披露しました。市長の「はねているだけ、簡単ですから」という一声を合図に踊り手たちに誘われると、見物に集まった住民も次々と踊りの輪に加わりました。「らっせーらー、らっせーらー」という掛け声が響き、はねとと住民が一体となって踊る広場は、ひと時祭りの熱気に包まれていました。

▼写真中央の三輪榮子さん(関沢)
「いい踊りだね。最高だったよ」



▼次第に広がる踊りの輪



6年生ガイギリス体験に

▼マントをまとって気分は
ハリーポッター



▲カラフルなポップアップカードを作りました

草野・飯樋・白石小学校の6年生40人が、天栄村のブリティッシュヒルズで1泊2日の体験学習を行いました。

英会話やイギリス文化が体験できるこの施設では、スタッフはすべて英語で話します。ゲームを取り入れた英会話レッスンを受けた後は、スコットランド地方の伝統的な菓子・ショートブレッドを作ったり、ポップアップカードを作ったりなど、ワークショップが目白押し。英語でのやりとりも、ボディランゲージを駆使してこなし、「外国に来たみたいだね」と話しながら、子どもたちはいきいきと活動しました。

宿泊場所は、中世イギリスの荘園領主の居宅や調度品を模したマナーハウスです。ビュッフェで食事をした後、少人数に分かれた子どもたちは、それぞれのマナーハウスで楽しい夜を過ごしました。



▲ホールでの食事。洋食マナーも学びました

飯舘校の2年生が仮設住宅に 花を植えました

◀感謝の言葉に少し照れながら



▲いくつものプランターを前に黙々と

相馬農業高校飯舘校の2年生18人が、県立明成高校敷地内の仮設校舎から、徒歩と電車で松川第一・第二応急仮設住宅を訪れ、ベゴニアの花を植えるボランティア活動を行いました。用意された赤白のベゴニアは約200株。生徒たちは移植ベラを片手に、集会所周辺や敷地内のプランターに一株ずつ丁寧に植えていきました。窓を開けて作業のようすを見ていた住民から「大変だね、ありがとう」「大事に育てておくかない」などと声をかけられると、生徒たちは作業の手を止めて笑顔を返していました。